



木曽馬に守られてきた

開田高原

その② 木曽馬と人々のくらし

0 8 2 2 2 学期はじめ 始業式

きそうま さと
木曽馬の里 で

きそうま のこ のこ
木曽馬を増やして残す

き そ うま ほぞん
木曽馬を保存しなければならない

中川さんや開田の人たち、もちろん私も
たくさんの方が木曽馬を増やして、残してい
きたいと思っています。

今日から3回の校長講話では、木曽馬をなぜ増
やしたいのか、残したいのかを皆さんに考え
てもらいたいと思います。

せいど あずかり馬の制度

うまもち うまぢぬし
馬持＝馬地主 （やました家）

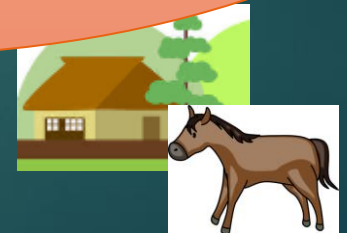
馬を借りて、子馬を産ませ、
子馬を売る。
売ったお金の30パーセント
をもらう。

江戸時代にできた「あずか
り馬」のせいどで開田高原
には多いときで1000頭
ほどの木曽馬が育てられて
いた。

こさく
小作



こさく
小作



こさく
小作

こさく
小作

馬頭観音菩薩



鮫洲 の馬頭観音菩薩



馬橋の馬頭観音菩薩

髭澤には、木曾義仲の馬が
ここで死んでしまい、義仲
が村の人に頼んで馬を産め
てお墓をつくり、馬頭観音
を立てたという言い伝えが
ある。



丸山観音 の 馬頭観音菩薩

スー HP「晴れても曇っても」 開田高原馬頭観音を巡る旅

開田（村）は、石造文化財が多い

- ・ 1,900をこえる石造物
- ・ 地蔵尊、石灯籠、記念碑などがあるが、一番多いのが、
馬頭観音 1 2 0 0 体 （一つの村にこれだけの馬頭観音があるのは、ここだけ）
日本古来の三大在来馬の主産地であった
- ・ 菩薩さま（仏教の仏様さま）の一種で、頭に馬がいることが多い。
- ・ 馬の神様に暮らしを守ってほしいという祈りと
- ・ 大切にしてきた馬の供養の意味がある。

馬小屋のある暮らし



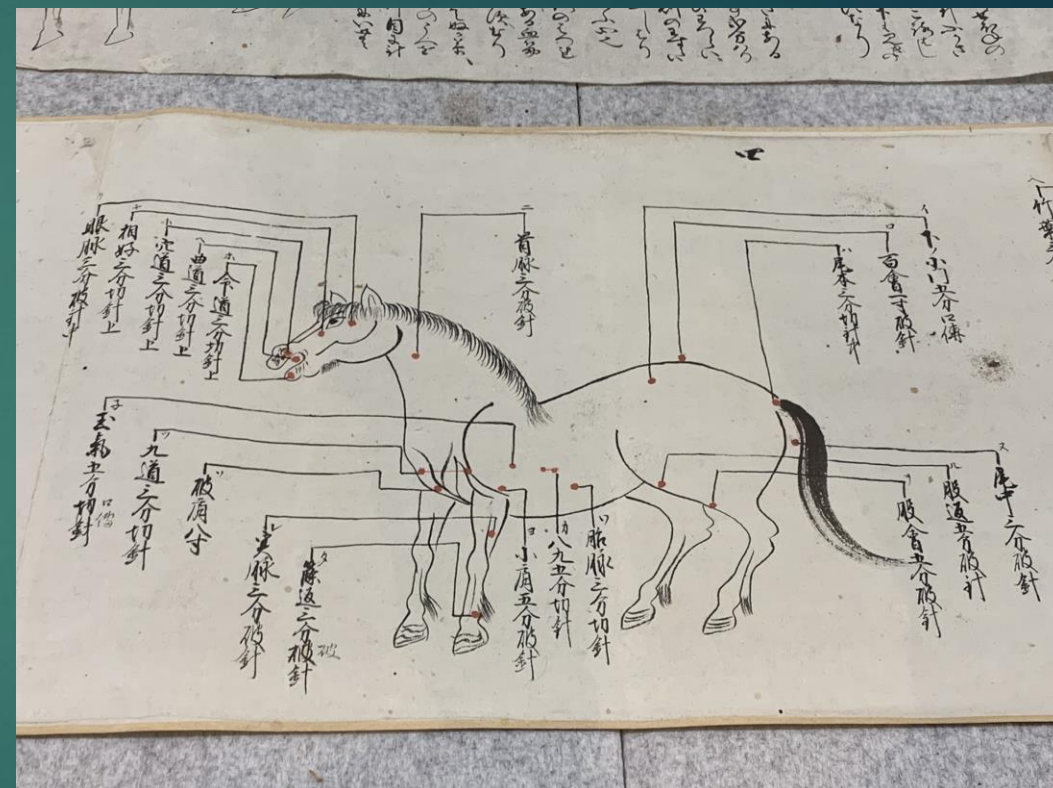
梶川美代子さんの実家（川下千晴さんのおばあさんが生まれた家）

今でこのようなつくりの家を見つけることができます。



梶川美代子さんの実家





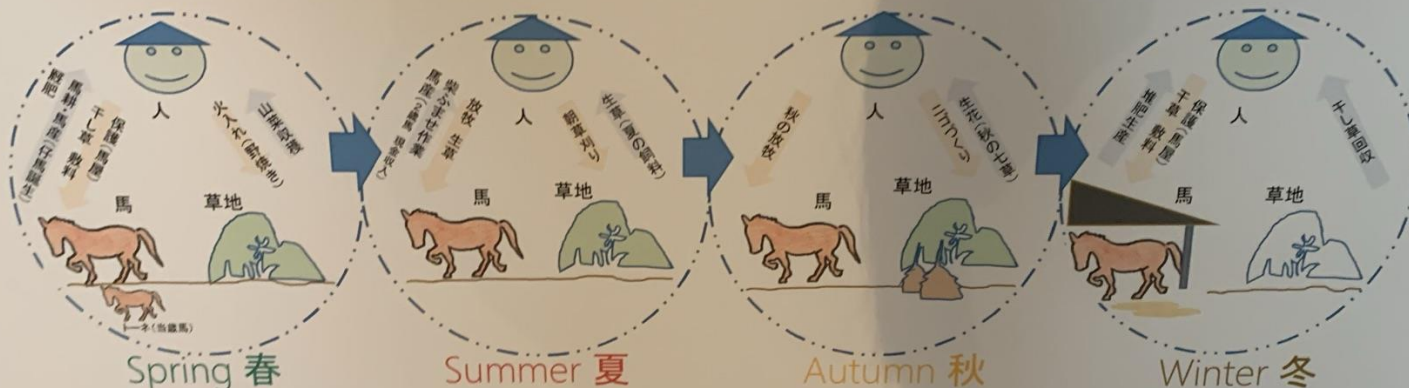






人と馬の一年 明治～大正時代頃 (イメージ図)

春▶野焼き→夏▶田畑→秋▶ニゴづくり→冬▶堆肥づくり



春は野焼きのシーズンです。草地ではワラビやネーナ(ツリガネニンジン)など山菜がたくさん採れます。仔馬が誕生して喜びに包まれます。

夏は畑を耕すため馬が農耕馬として活躍します。馬用の犁(すき)を用います。御嶽山の麓では馬が放牧されていました。

秋はニゴづくりを行い、冬の間の馬の餌にします。草地に咲く花々は祖先を祀る盆花として使用されました。

冬はひとつ屋根の下で人と馬が過ごします。馬屋の床には堆肥ができるので畑に利用し、その発酵熱も寒さから身を守るために活用しました。

木曾馬の役割＝農耕馬・仔馬の繁殖・堆肥(厩肥)づくり



「長野県宝 山下家住宅—木曾馬と生きる文化・人々」